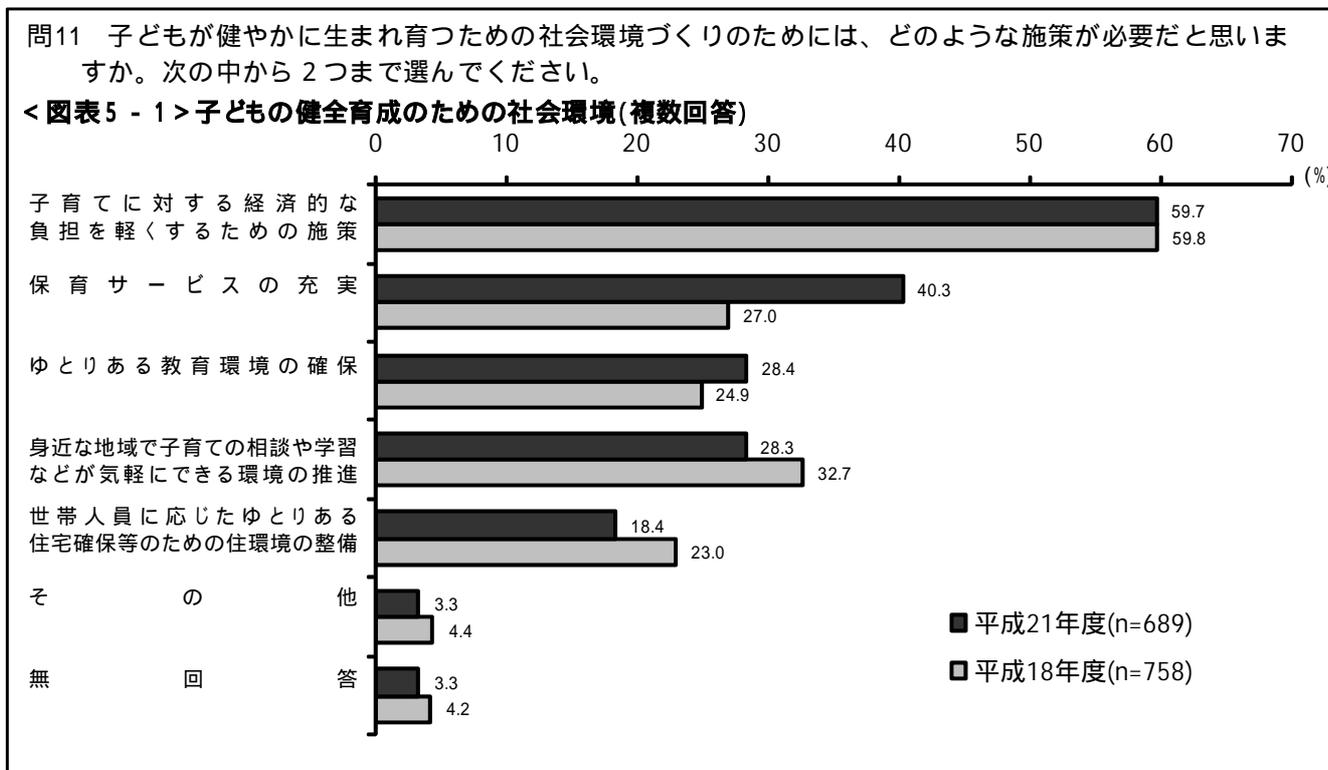


5 . 福祉社会

(1) 子どもの健全育成のための社会環境

「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」が6割

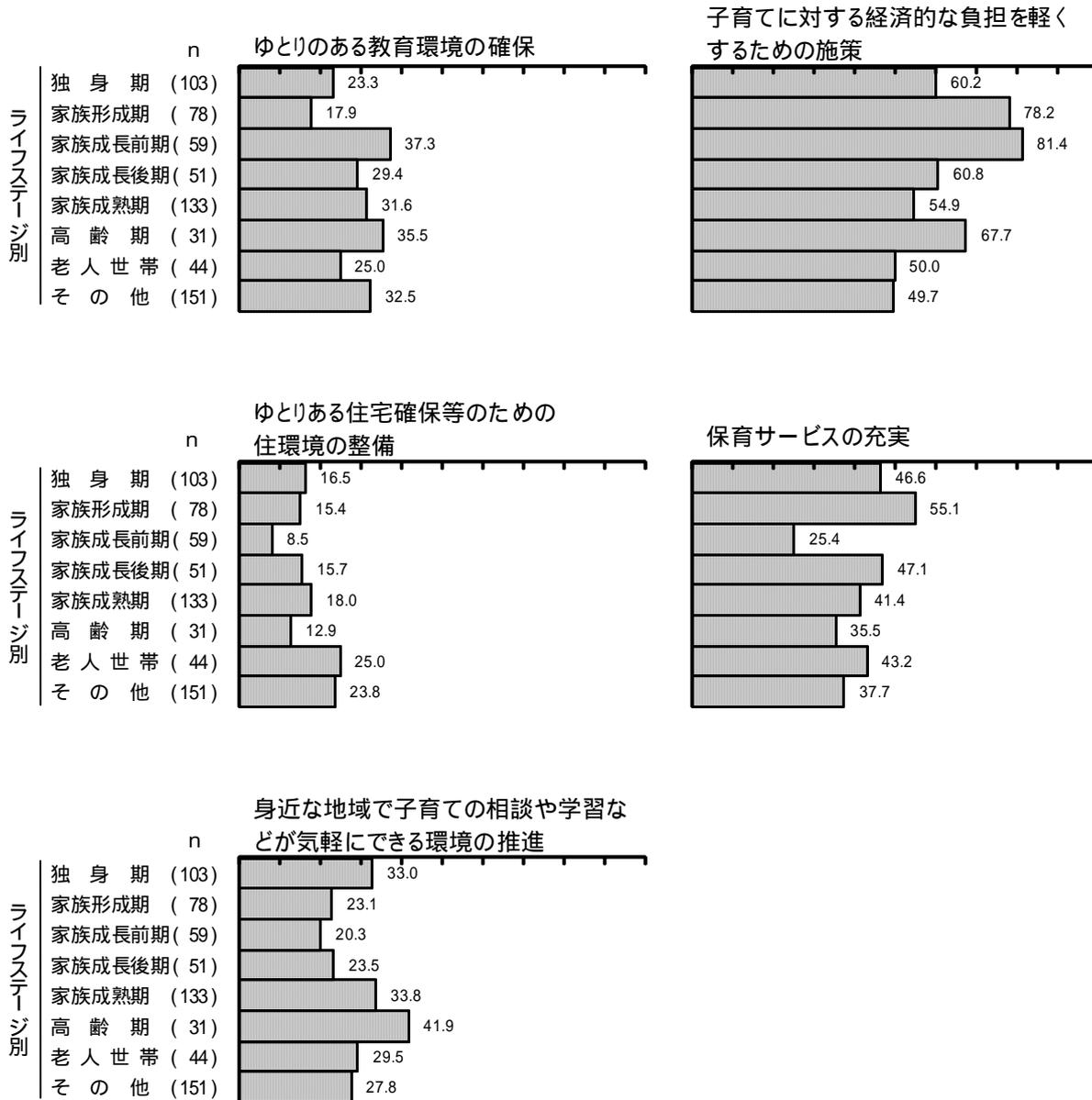


子どもの健全育成に必要な施策について尋ねたところ、「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」(59.7%)の割合が最も高く約6割となっている。次いで「保育サービスの充実」(40.3%)が4割台、以下、「ゆとりある教育環境の確保」(28.4%)、「身近な地域で子育ての相談や学習などが気軽にできる環境の推進」(28.3%)、「世帯人員に応じたゆとりある住宅確保等のための住環境の整備」(18.4%)となっている。(図表5 - 1)

平成18年度の調査結果と比較すると、「保育サービスの充実」が約13ポイント増加した。(図表5 - 1)

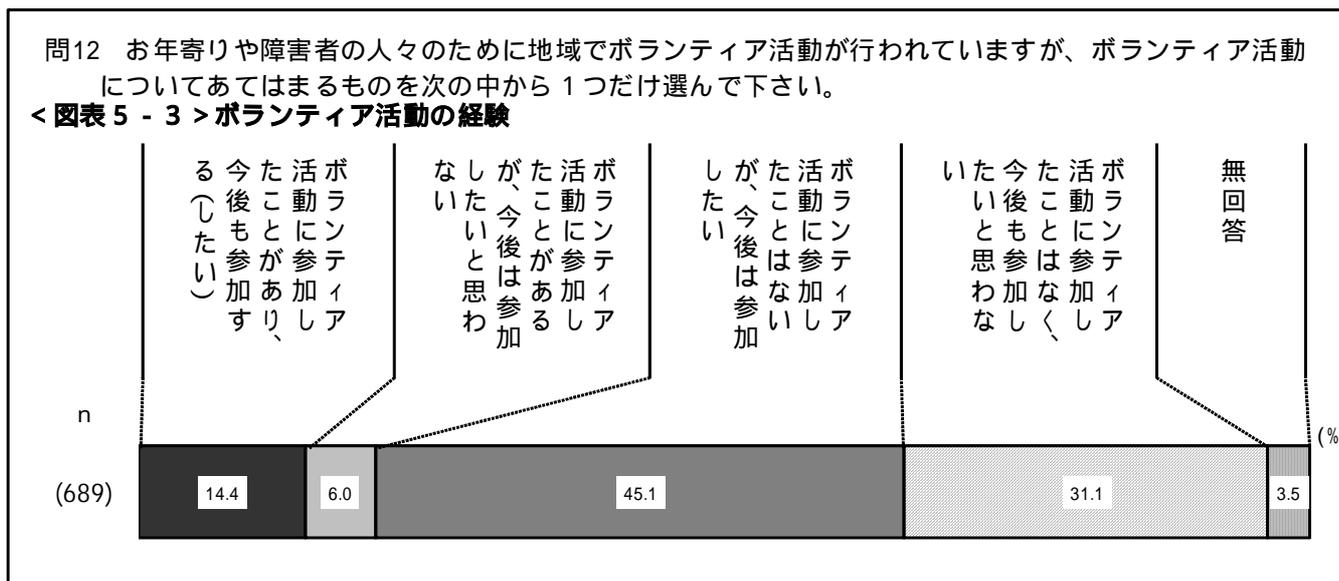
ライフステージ別でみると、「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」は、家族形成期（78.2%）、家族成長前期（81.4%）で約8割と高い割合を示している。また、「保育サービスの充実」は、家族形成期（55.1%）で5割強と、他のステージに比べ高くなっている。（図表5 - 2）

<図表5 - 2> 子どもの健全育成のための社会環境 / ライフステージ別



(2) ボランティア活動の経験

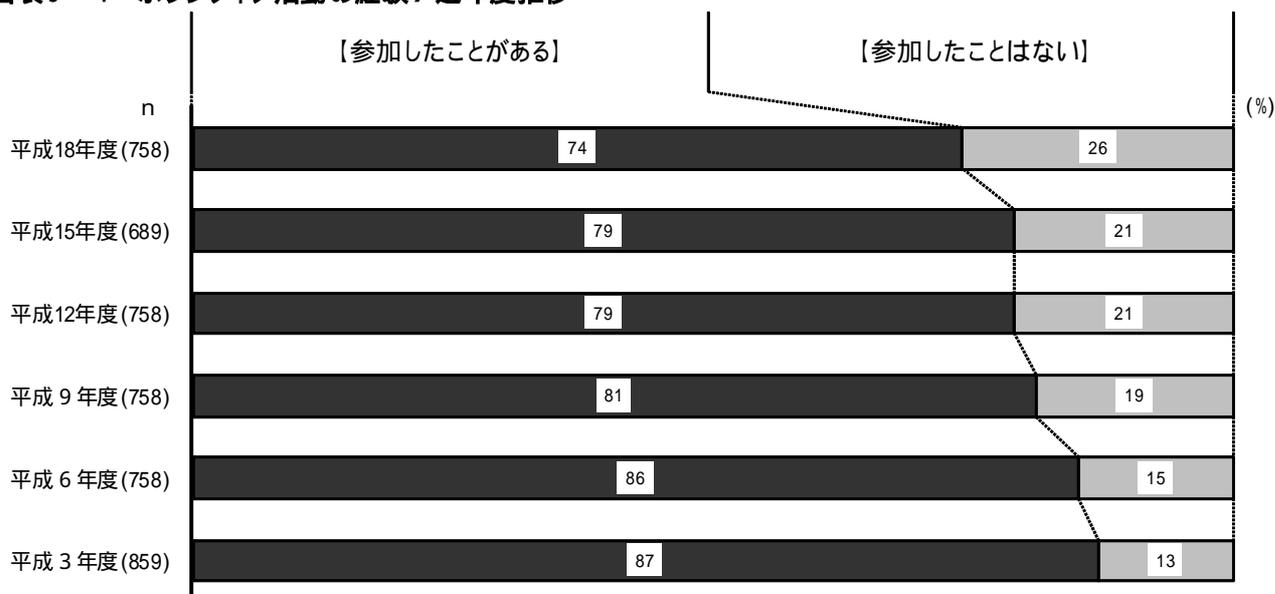
「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」が4割半ば



ボランティア活動への参加経験については、「ボランティア活動に参加したことがあり、今後も参加する(したい)」と、「ボランティア活動に参加したことがあるが、今後は参加したいと思わない」を合わせた【参加したことがある】が20.4%、「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」と、「ボランティア活動に参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」を合わせた【参加したことはない】が76.2%となっている。(図表5 - 3)

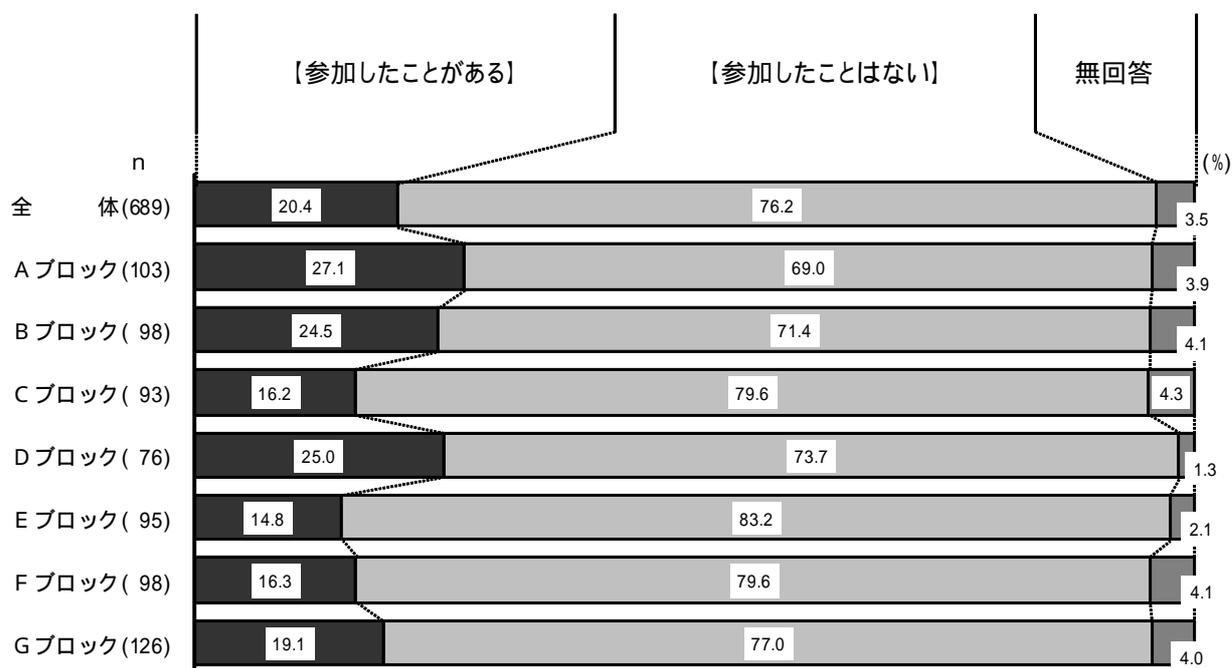
平成3年度からの調査結果の過年度推移をみると、ボランティアに【参加したことがある】人は、平成18年度まで増加する傾向がみられたが、今年度調査では若干減少した。(図表5 - 4)

< 図表5 - 4 > ボランティア活動の経験 / 過年度推移



地域別で見ると、【参加したことがある】の割合はAブロック、Bブロック、Dブロックで2割半ばとなっている。(図表5 - 5)

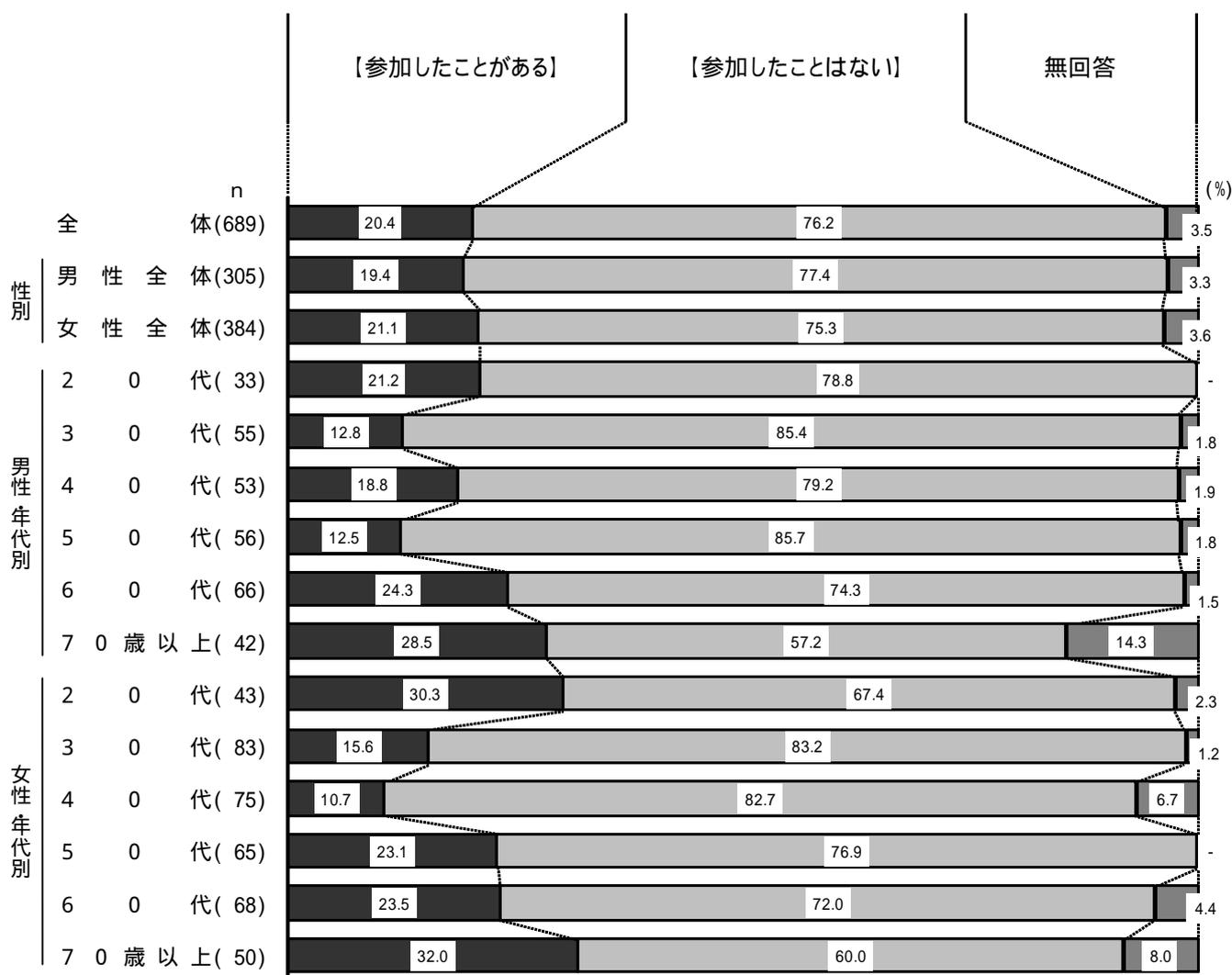
<図表5 - 5> ボランティア活動の経験/地域別



性別で見ると大きな差異はみられない。性・年代別では、【参加したことがある】は男性の70歳以上（28.5%）、女性の20代（30.3%）、70歳以上（32.0%）で3割前後となっている。一方、【したことがない】は、男性の20代（78.8%）、30代（85.4%）、40代（79.2%）、50代（85.7%）、女性の30代（83.2%）、40代（82.7%）で8割前後と他の年代に比べボランティア活動への参加経験がない人が多い。

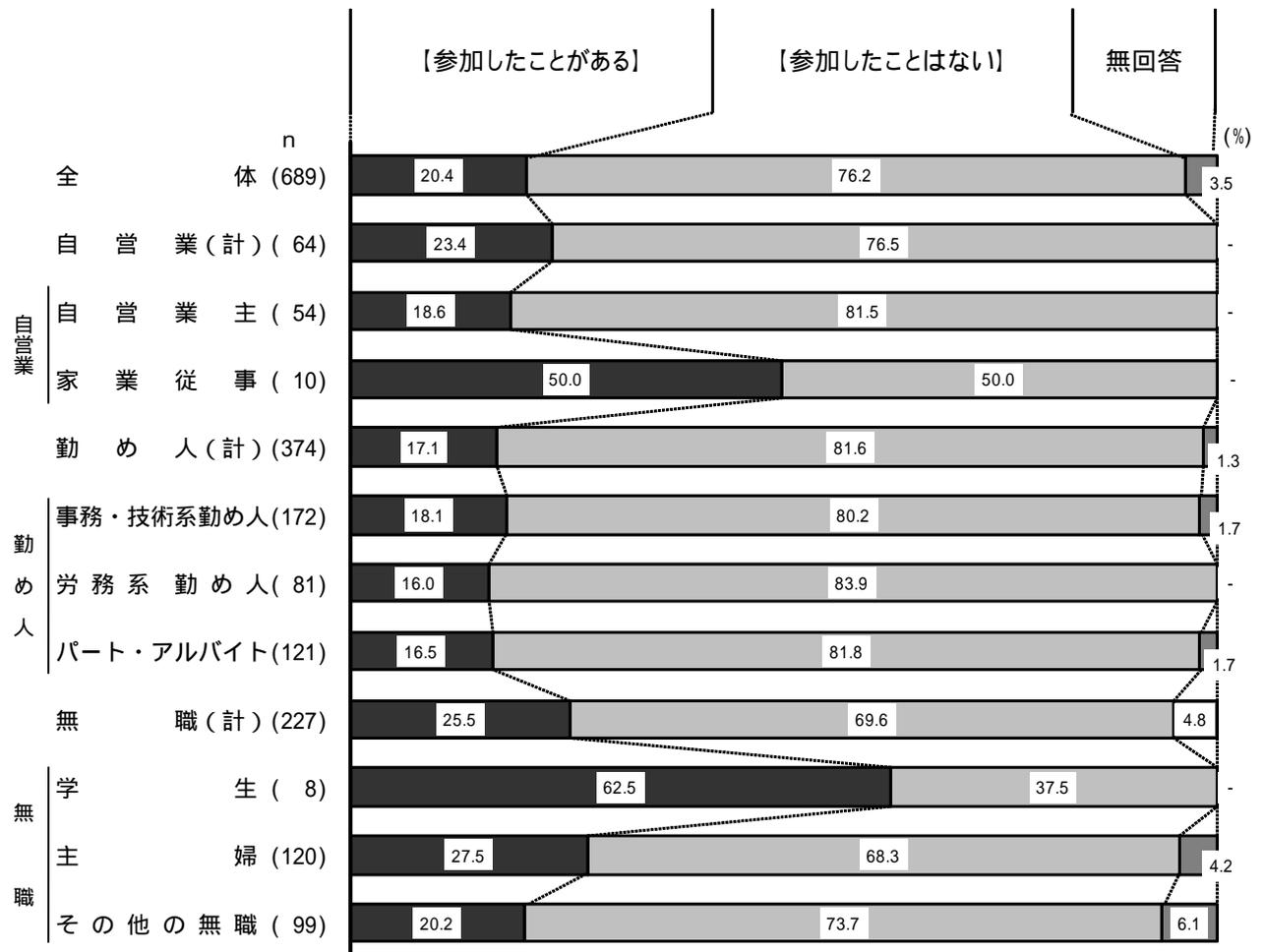
（図表5 - 6）

< 図表5 - 6 > ボランティア活動の経験 / 性別、性・年代別



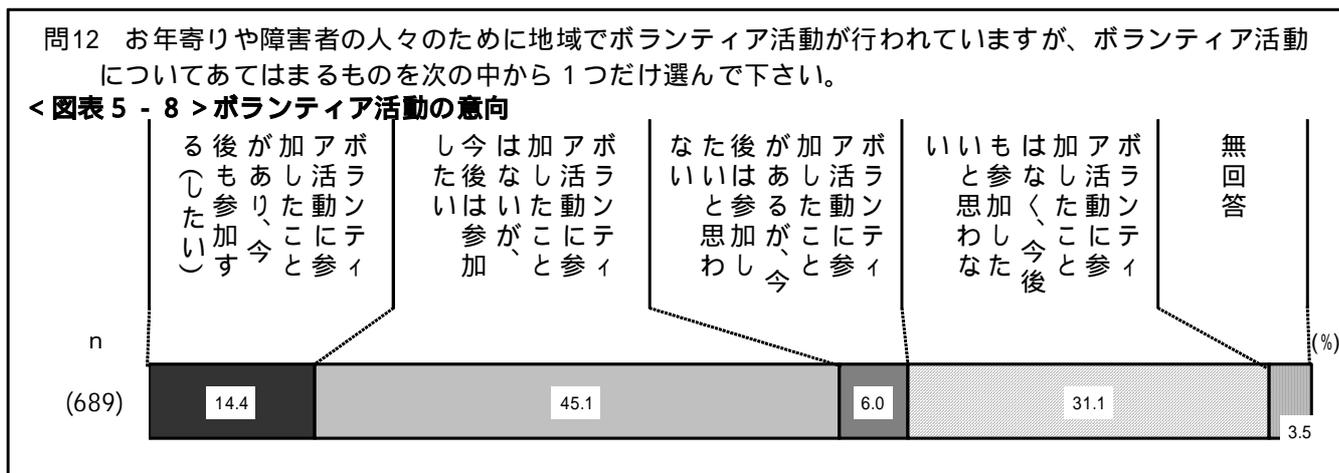
職業別でみると、【参加したことがある】は自営業(計)で23.4%、無職(計)で25.5%と、勤め人(計)で17.1%になっている。主婦の【参加したことがある】割合(27.5%)が高くなっている。(図表5-7)

<図表5-7> ボランティア活動の経験/職業別



(3) ボランティア活動の意向

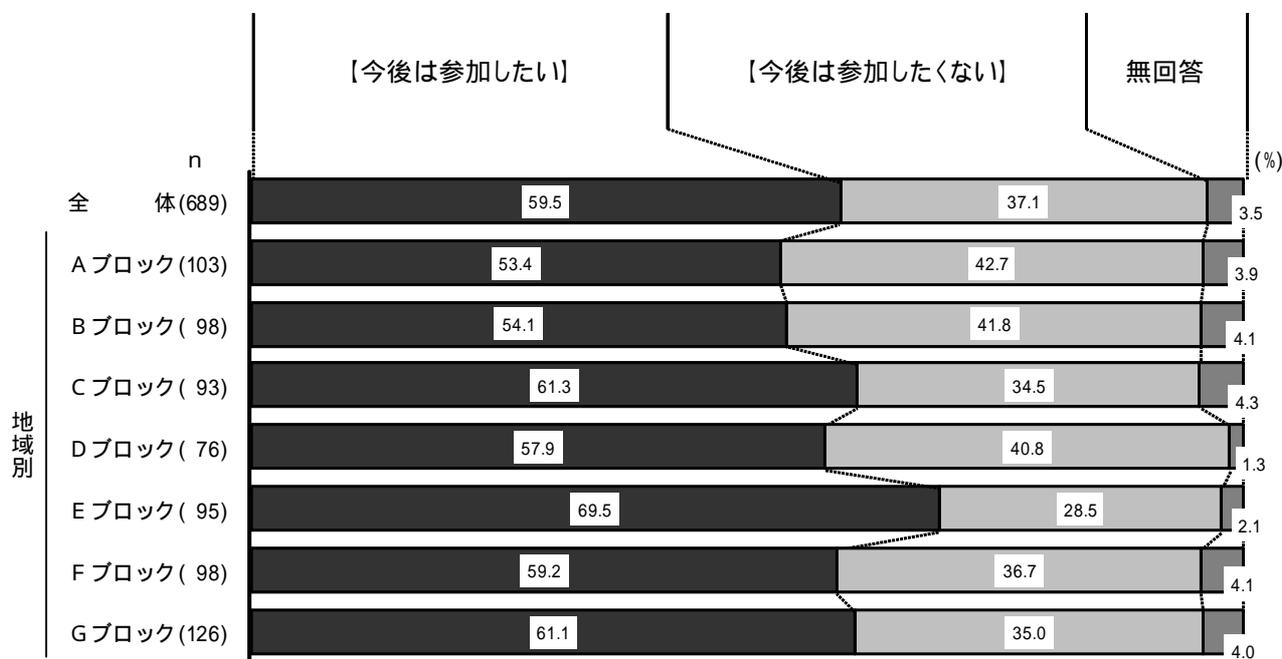
「したいと思う」が約6割、「したいと思わない」が約4割



今後のボランティア活動への参加意向については、「ボランティア活動に参加したことがあり、今後も参加する(したい)」と、「ボランティア活動に参加したことはないが、今後は参加したい」を合わせた【今後は参加したい】(59.5%)が約6割となっている。一方、「ボランティア活動に参加したことがあるが、今後は参加したいと思わない」と「ボランティア活動に参加したことはなく、今後も参加したいと思わない」を合わせた【今後は参加したくない】(37.1%)は約4割となっている。(図表5 - 8)

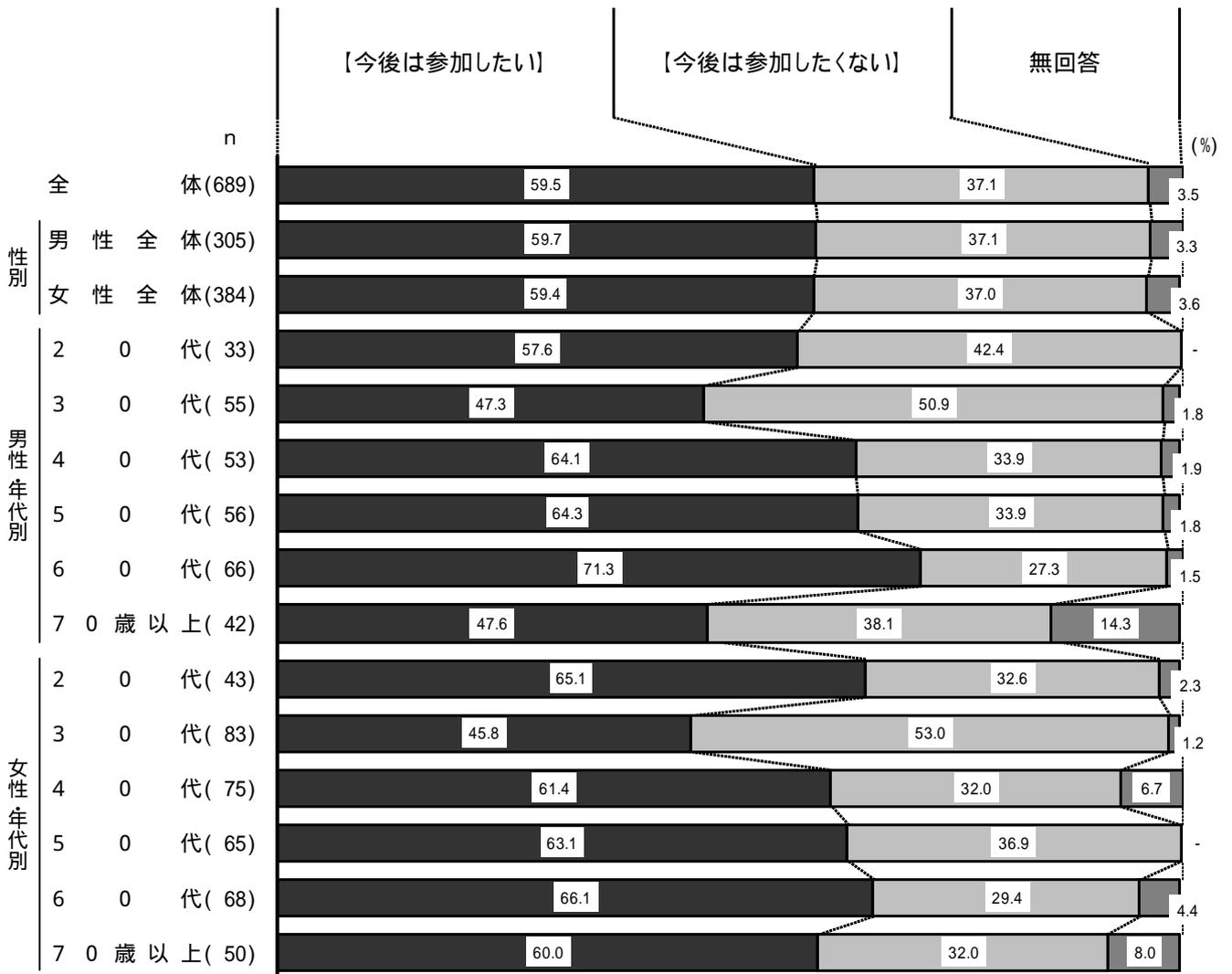
地域別でみると、【今後は参加したい】の割合はすべての地域で半数以上を占めており、特にEブロック(69.5%)では割合が高く約7割となっている。(図表5 - 9)

< 図表5 - 9 > ボランティア活動の意向 / 地域別



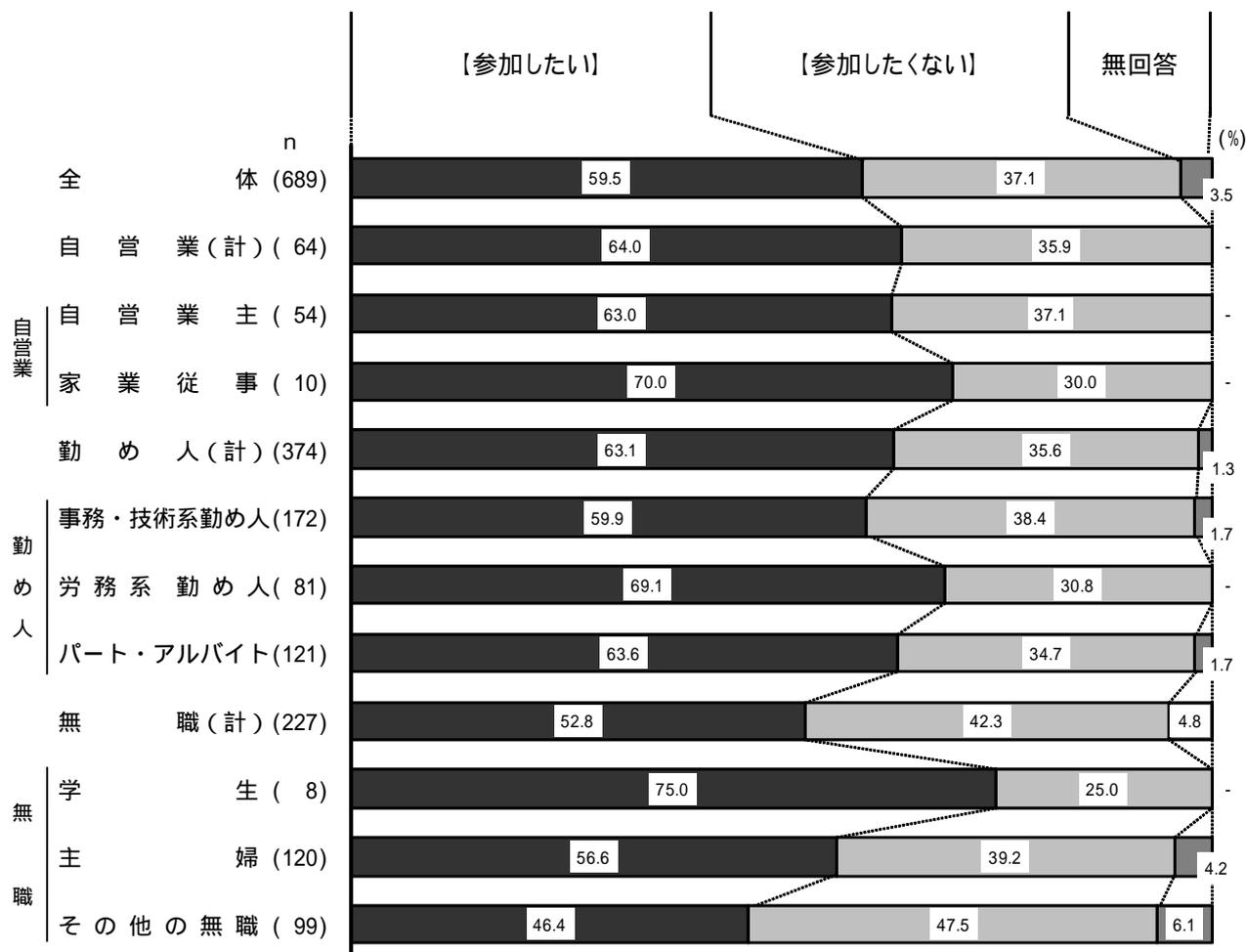
性別で見ると、【今後は参加したい】の割合は男性（59.7%）女性（59.4%）で差異はみられない。
 性・年代別で見ると、【今後は参加したい】の割合は男性の60代（71.3%）をはじめ、各性別・世代で6割前後となったが、男性の30代（47.3%）と70歳以上（47.6%）、女性の30代（45.8%）は5割弱となった。（図表5 - 10）

< 図表 5 - 10 > ボランティア活動の意識 / 性別、性・年代別



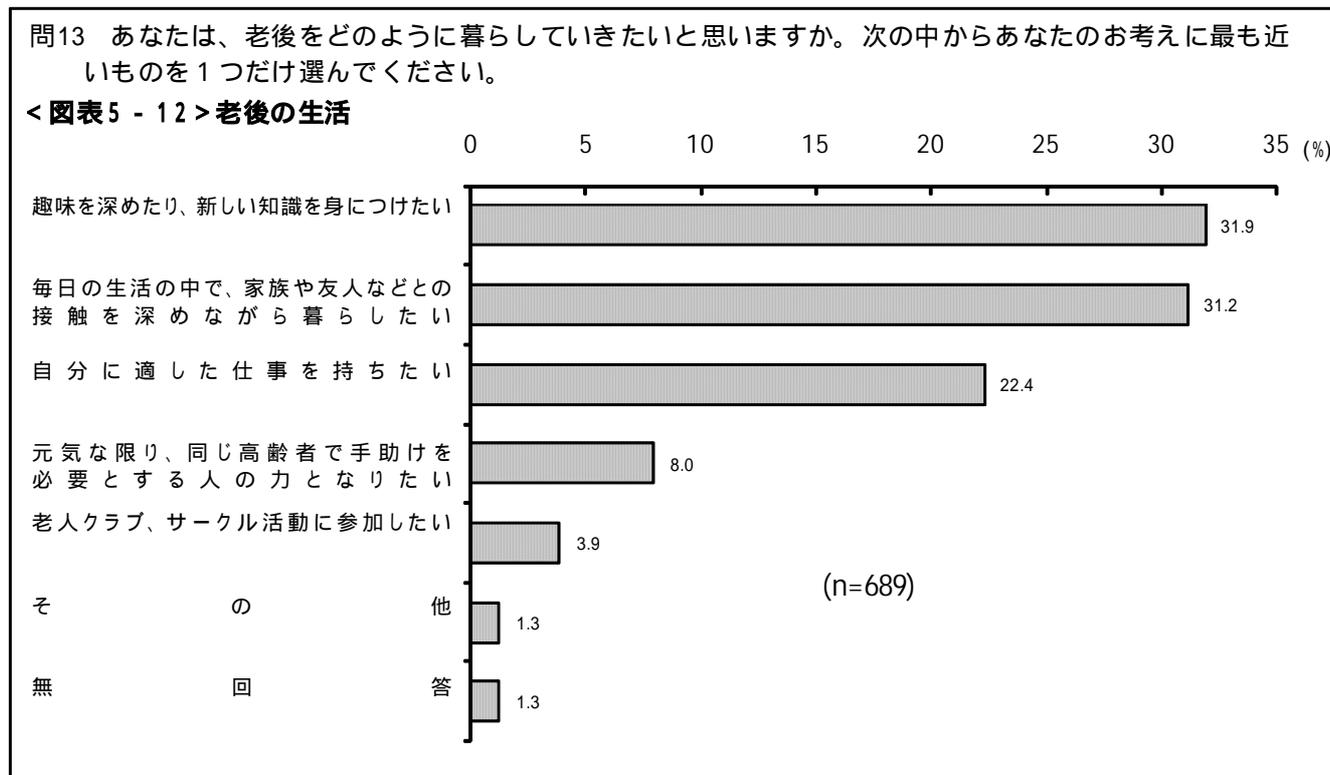
職業別では、【今後は参加したい】の割合は、自営業（計）（64.0%）、勤め人（計）（63.1%）で高く、約3人に2人となっている。（図表5 - 11）

<図表5 - 11> ボランティア活動の意向 / 職業別



(4) 老後の生活

「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」と「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」が3割台

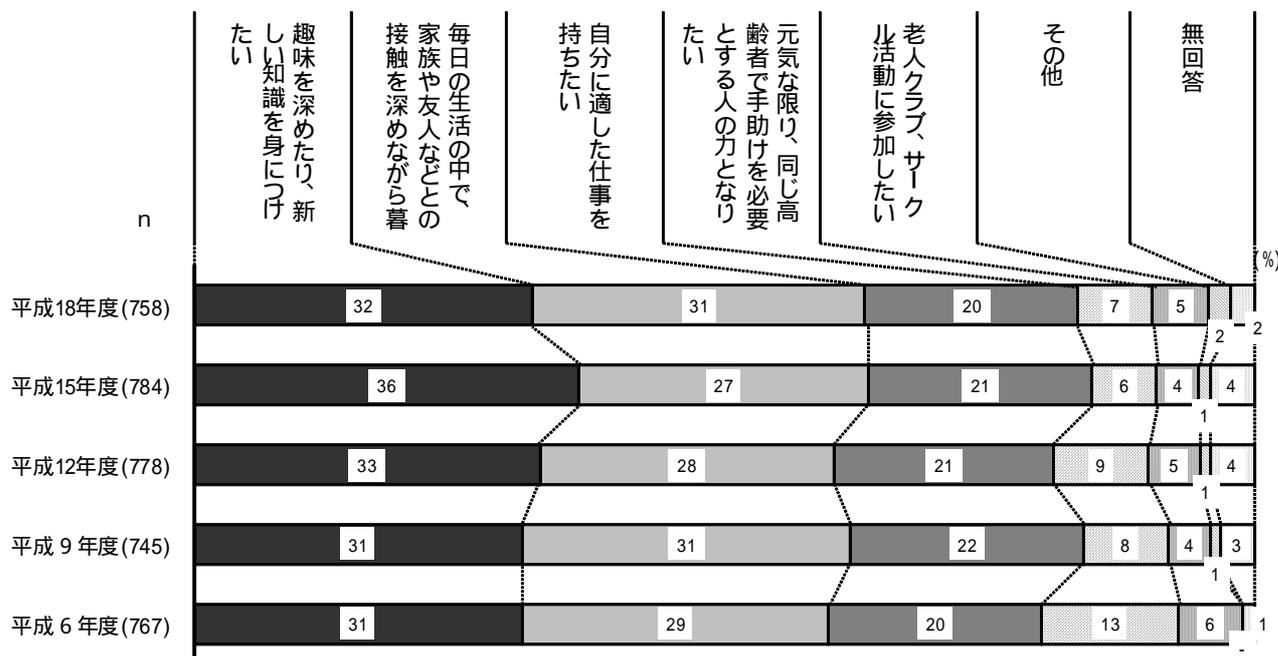


老後をどのように暮らしていきたいと思うか尋ねたところ、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(31.9%)と「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」(31.2%)が3割台と高くなっている。「自分に適した仕事を持ちたい」(22.4%)は2割台となっている。

(図表5 - 12)

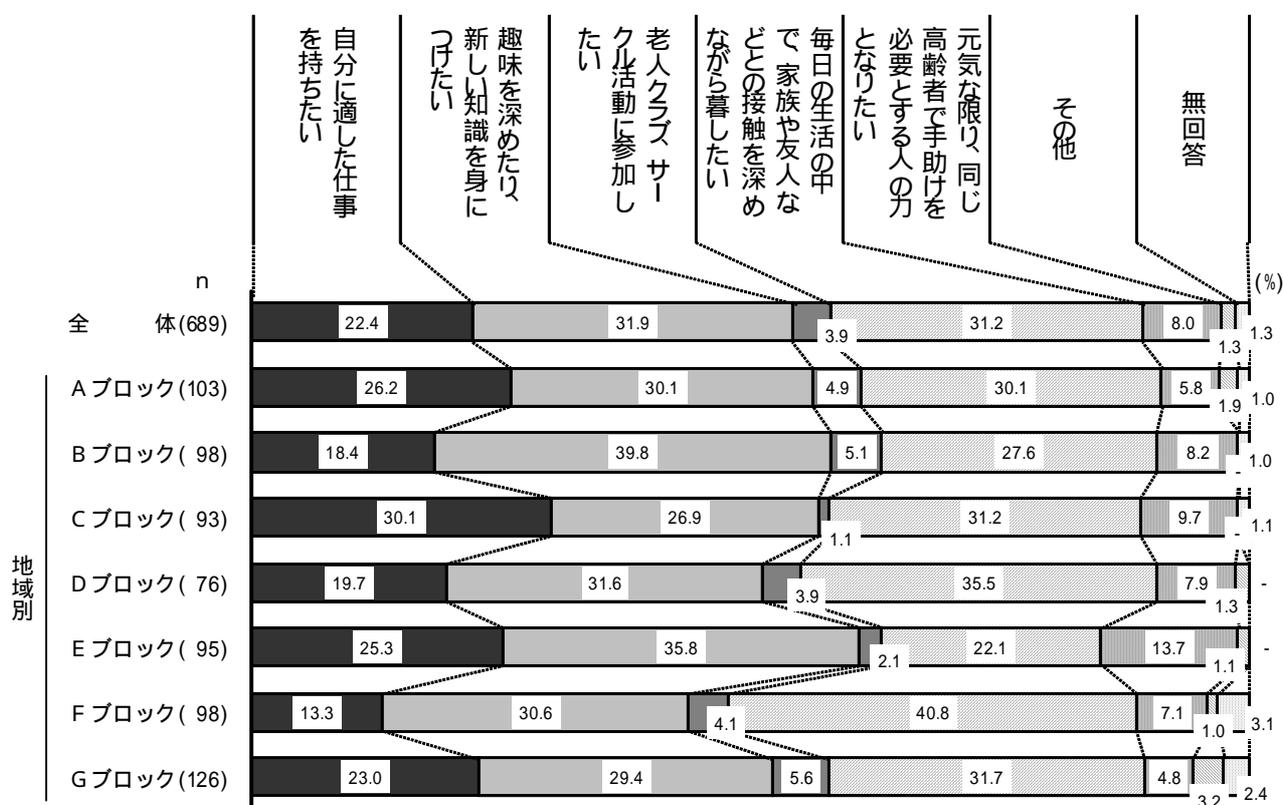
過年度調査の推移をみると、今回調査と大きな差異はみられない。(図表5 - 13)

<図表5 - 13> 老後の生活 / 過年度推移



地域別にみると、Fブロックの「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」(40.8%)、Bブロックの「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(39.8%)と約4割となっている。(図表5 - 14)

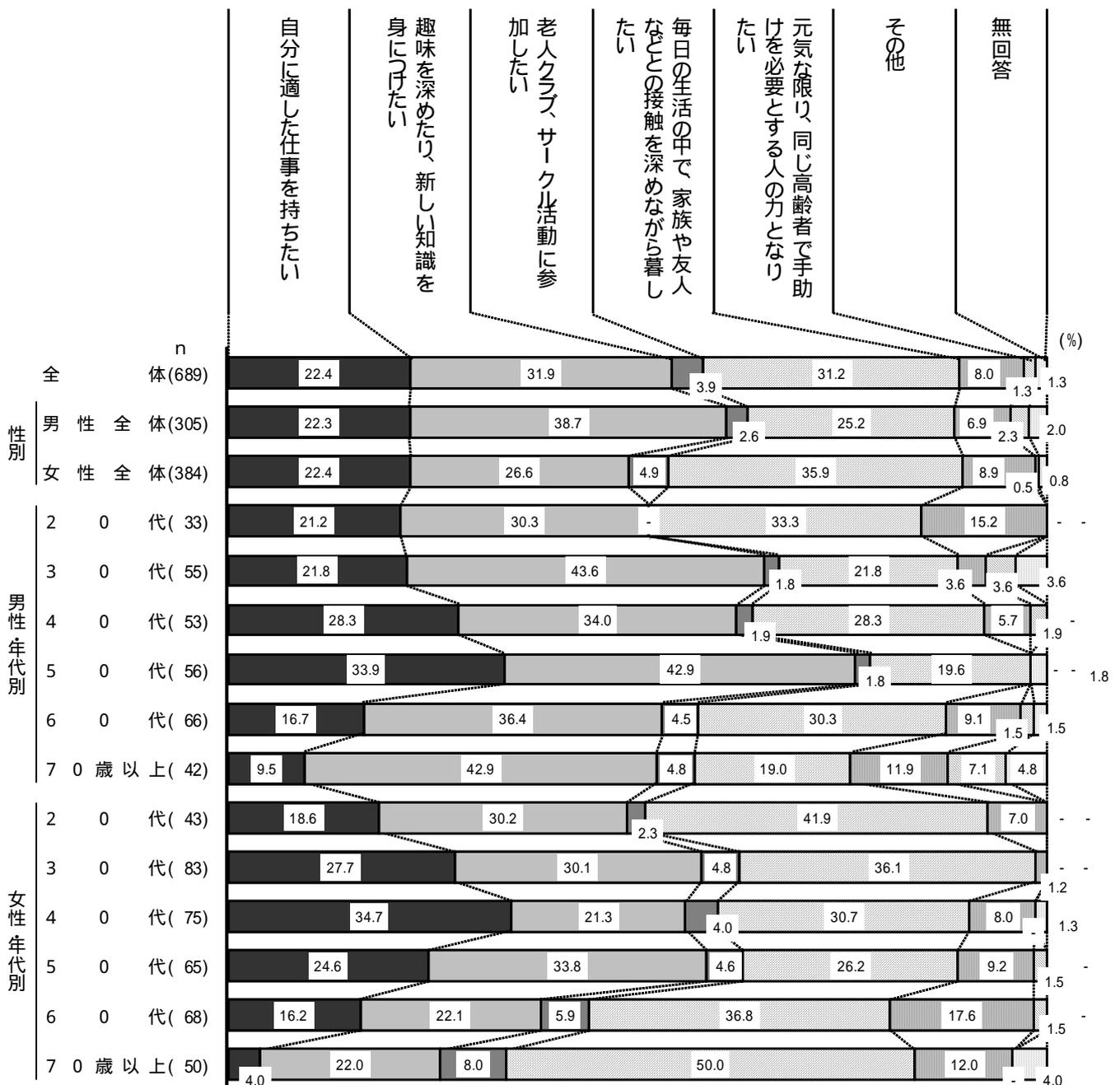
<図表5 - 14> 老後の生活 / 地域別



性別で見ると、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(男性38.7%、女性26.6%)では、女性よりも男性の方が割合が高くなっている。一方、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」(男性25.2%、女性35.9%)は、女性の方が男性よりも上回っている。

性・年代別では、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」は、男性の30代(43.6%)、男性の50代(42.9%)、男性の70歳以上(42.9%)で4割を超えた。また、「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」は、女性の70歳以上(50.0%)で高く、2人に1人となっている。(図表5-15)

<図表5-15> 老後の生活/地域別

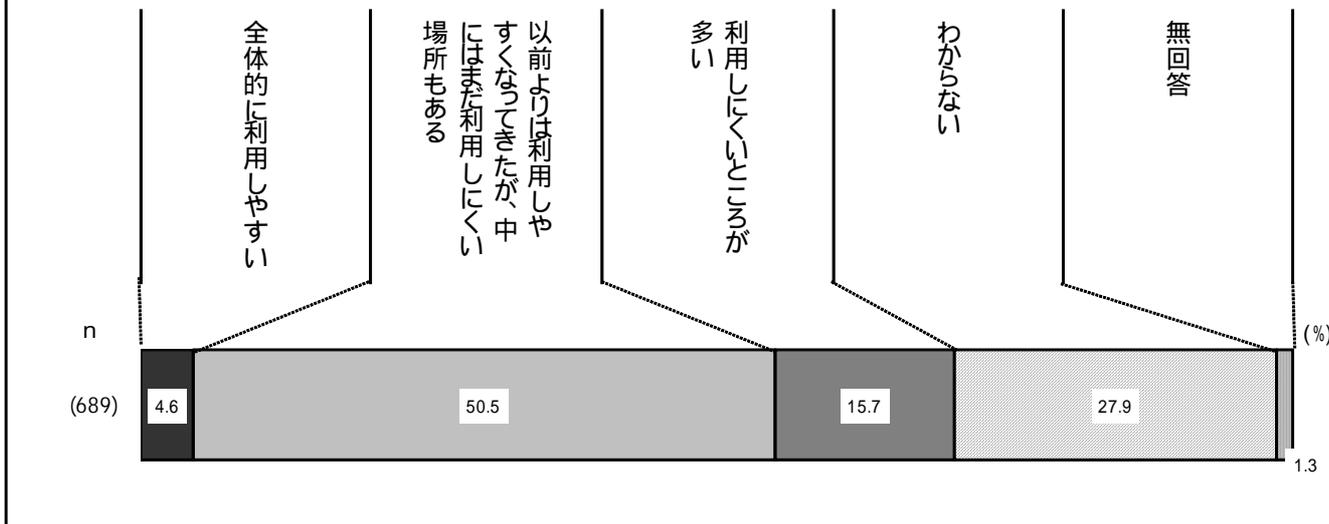


(5) バリアフリー社会の現況

「以前よりは利用しやすくなってきたが、中にはまだ利用しにくい場所もある」が約半数

問14 バリアフリー化の推進についてお伺いします。福生市の道路や公園、建物は、高齢者や障害者の方をはじめ誰もが安全で快適に利用しやすいものになっていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

<図表5-16> バリアフリー社会の現況

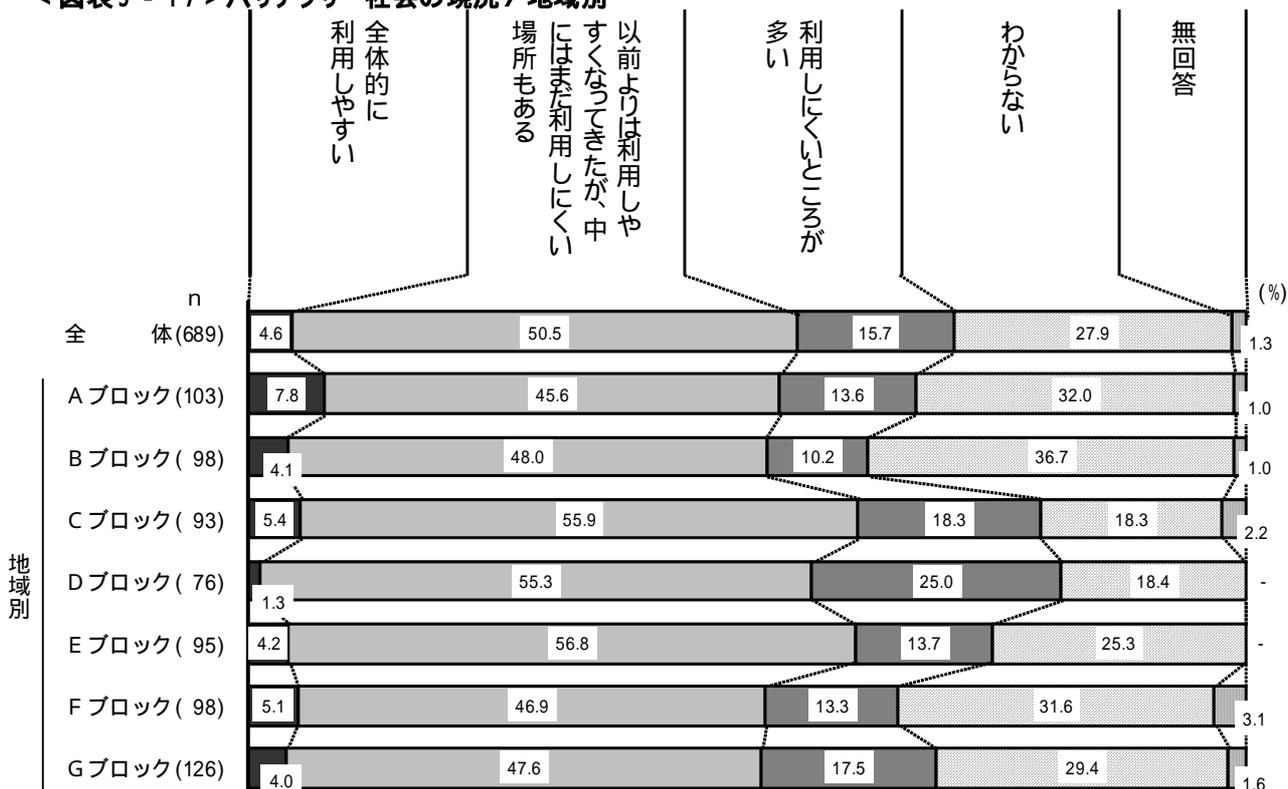


バリアフリー社会の現況について尋ねたところ、「以前よりは利用しやすくなってきたが、中にはまだ利用しにくい場所もある」(50.5%)が約半数となった。次いで、「わからない」(27.9%)が3割弱、「利用しにくいところが多い」(15.7%)、「全体的に利用しやすい」(4.6%)の順となった。

(図表5-16)

地域別にみると、「利用しにくいところが多い」のDブロック(25.0%)が他のブロックよりやや高い割合を示した(図表5-17)

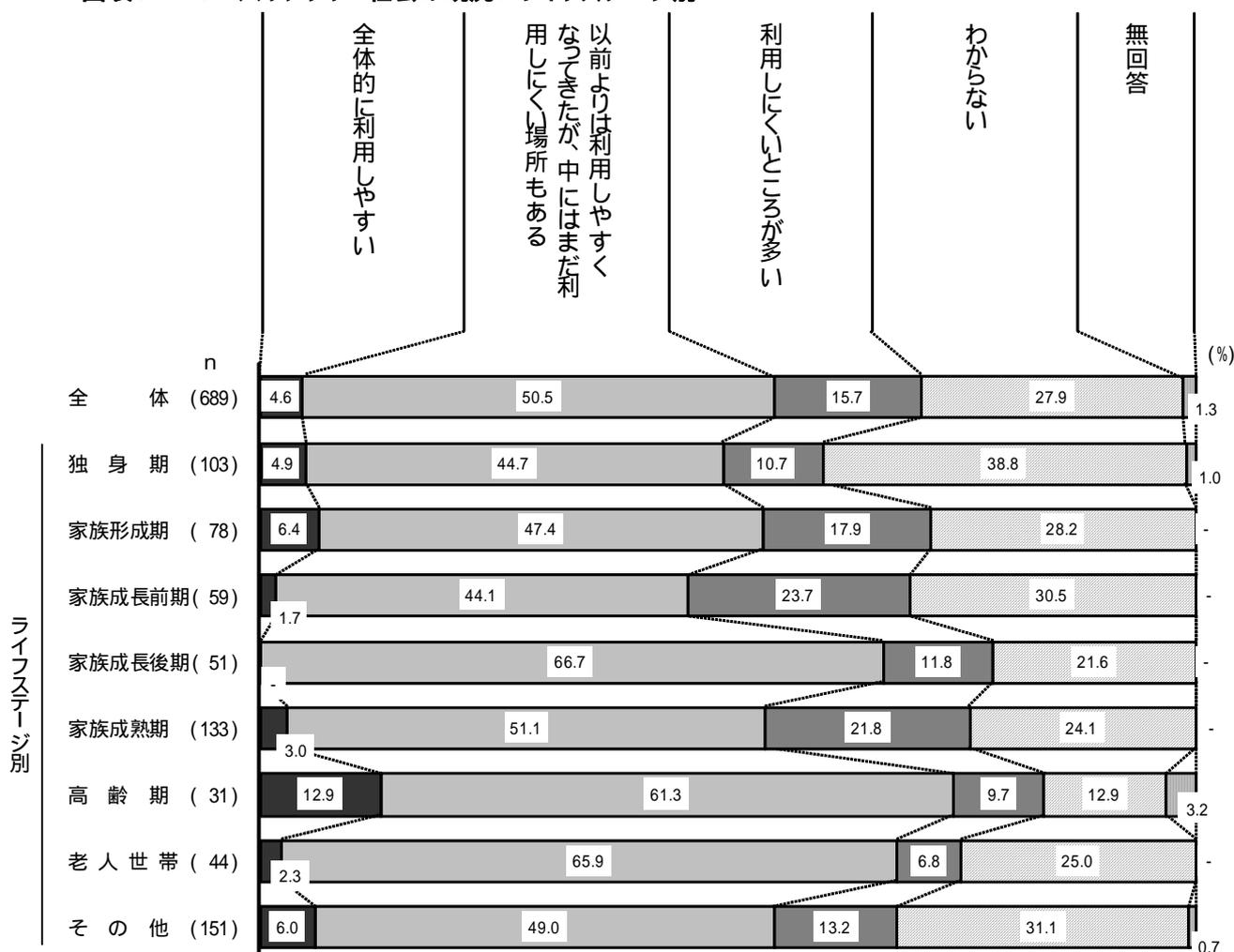
<図表5-17> バリアフリー社会の現況/地域別



ライフステージ別にみると、「全体的に利用しやすい」は高齢期（12.9%）が最も高い割合を示す。

「利用しにくいところが多い」は、家族成長前期（23.7%）、家族成熟期（21.8%）で2割を超え、「以前よりは利用しやすくなってきたが、中にはまだ利用しにくい場所もある」は、家族成長後期（66.7%）、高齢期（61.3%）、老人世帯（65.9%）で6割を超えた。（図表5 - 18）

<図表5 - 18> バリアフリー社会の現況 / ライフステージ別

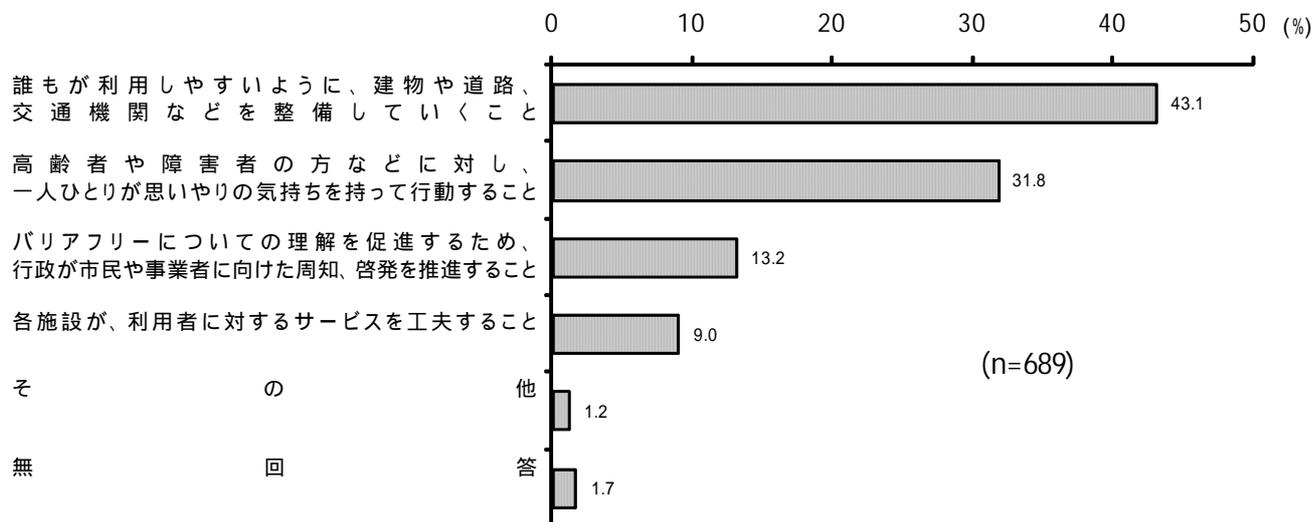


(6) バリアフリー化実現のための重要項目

「誰もが利用しやすいように、建物や道路、交通機関などを整備していくこと」が4割強

問15 高齢者や障害者の方をはじめ、誰もが住みやすいバリアフリーのまちづくりを実現するために、特に重要だと思うことは何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

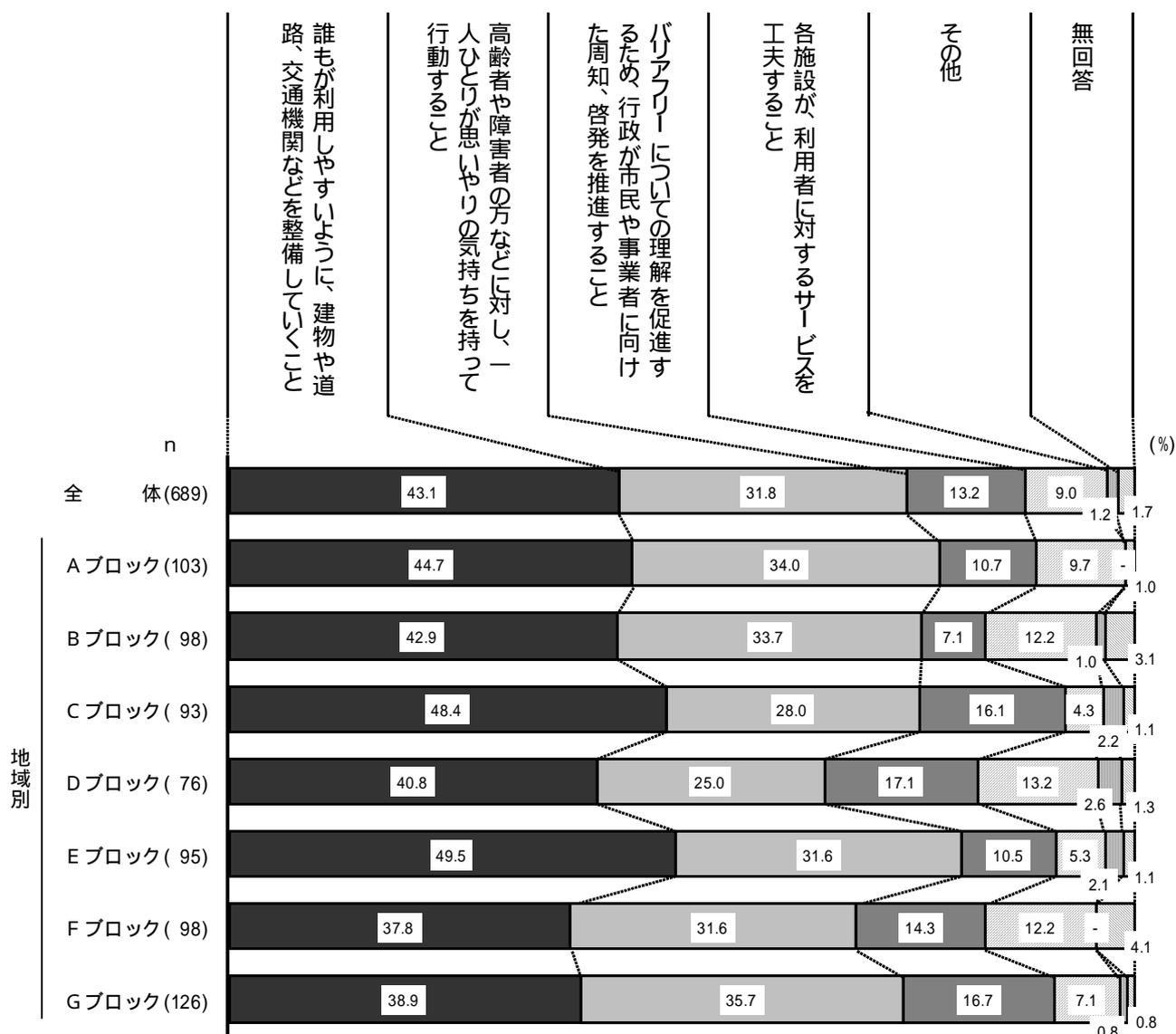
<図表5-19> バリアフリー化実現のための重点項目



バリアフリー化実現のための重点項目を尋ねたところ、「誰もが利用しやすいように、建物や道路、交通機関などを整備していくこと」(43.1%)が4割強と一番多く、続いて「高齢者や障害者の方などに対し、一人ひとりが思いやりの気持ちを持って行動すること」(31.8%)が約3割、「バリアフリーについての理解を促進するため、行政が市民や事業者に向けた周知、啓発を推進すること」(13.2%)、「各施設が利用者に対するサービスを工夫すること」(9.0%)となっている。(図表5-19)

地域別で見ると、「誰もが利用しやすいように、建物や道路、交通機関などを整備していくこと」は、Cブロック（48.4%）とEブロック（49.5%）で約半数となった。（図表5 - 20）

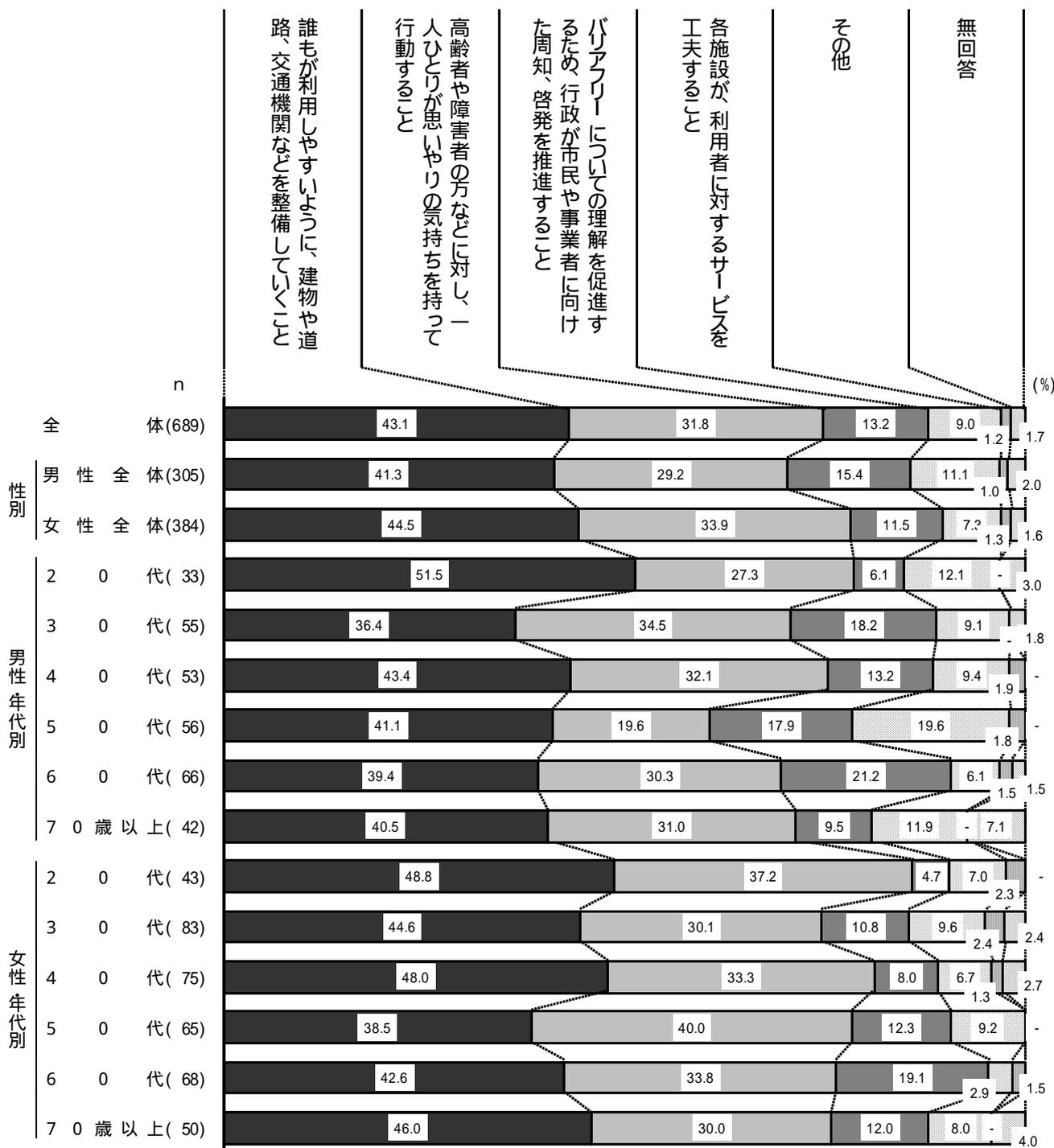
<図表5 - 20> バリアフリー化実現のための重点項目 / 地域別



性別でみると、大きな差異はみられない。

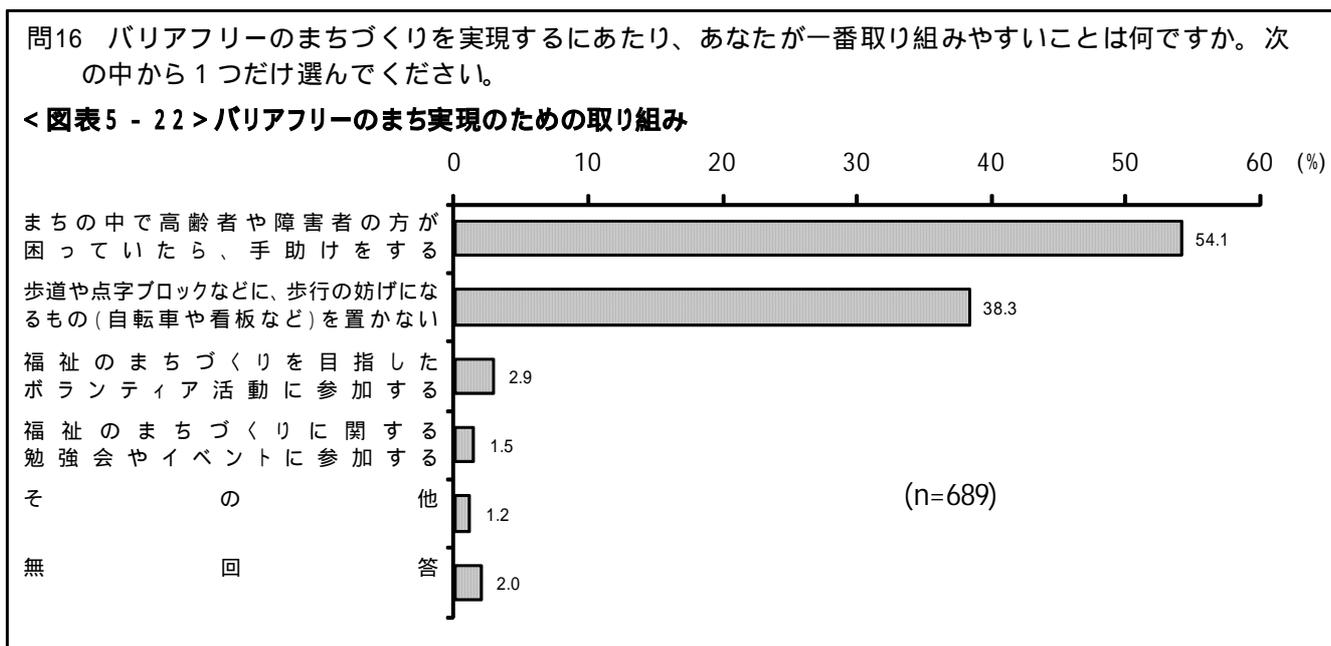
性・年代別でみると、男性の20代（51.5%）で約5割、女性の20代（48.8%）、40代（48.0%）で5割弱となった。「高齢者や障害者の方などに対し、一人ひとりが思いやりの気持ちを持って行動すること」、「バリアフリーについての理解を促進するため、行政が市民や事業者に向けた周知、啓発を推進すること」、「各施設が、利用者に対するサービスを工夫すること」は男性より女性の方が若干高い割合を示す傾向がみられる。（図表5 - 21）

＜図表5 - 21＞バリアフリー化実現のための重点項目 / 性別、性・年代別



(7) バリアフリーのまち実現のための取り組み

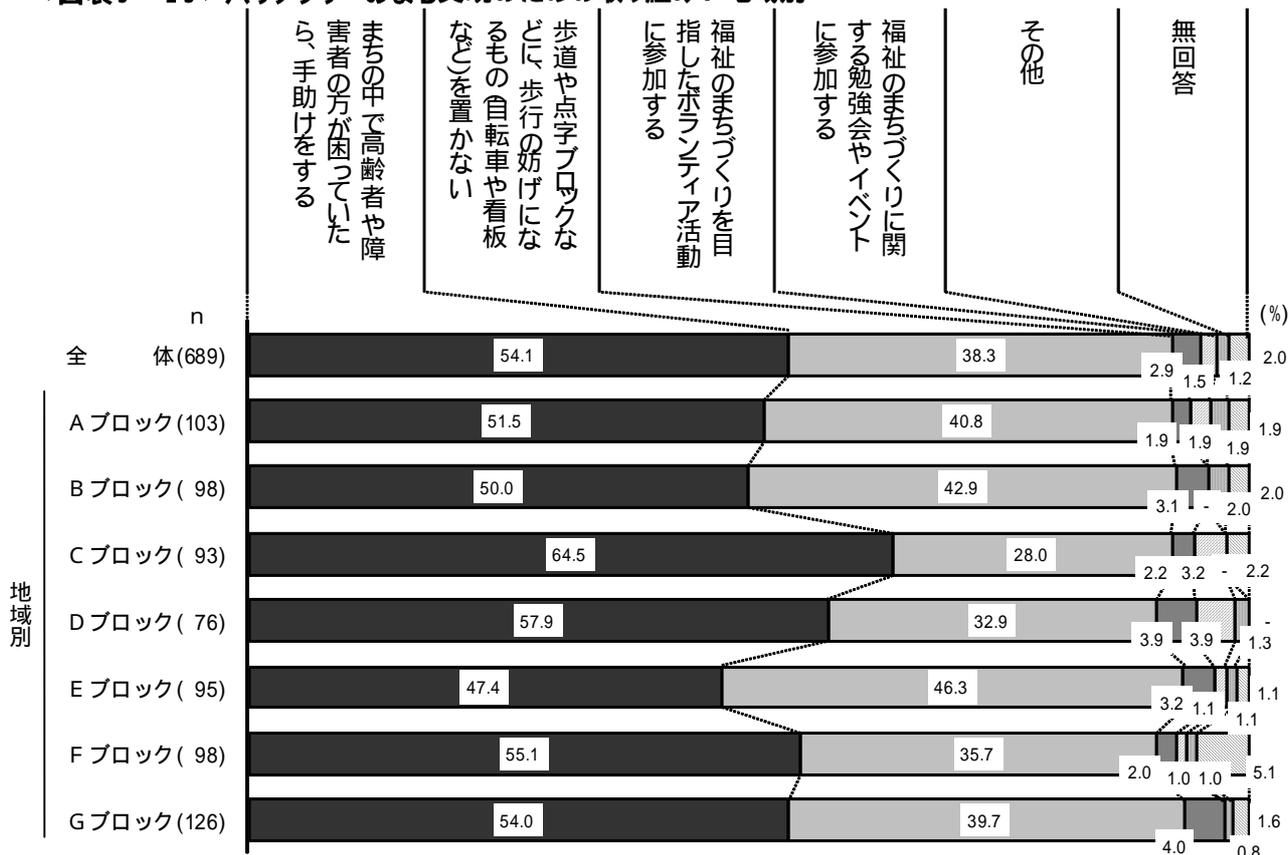
「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」が5割強



バリアフリーのまち実現のための取り組みについて尋ねたところ、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」(54.1%)が最も割合が高く、5割強となった。次いで、「歩道や点字ブロックなどに、歩行の妨げになるもの(自転車や看板など)を置かない」(38.3%)が4割弱となっている。(図表5-22)

地域別にみると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」はCブロック(64.5%)で他の居住地域より高い割合を示した。(図表5-23)

<図表5-23> バリアフリーのまち実現のための取り組み/地域別



性別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」は男性全体(49.2%)より女性全体(58.1%)で約1割ほど高い割合を示し、「歩道や点字ブロックなどに、歩行の妨げになるもの(自転車や看板など)を置かない」は男性全体(42.0%)の方が女性全体(35.4%)より若干高い割合を示す。

性、年代別でみると、「まちの中で高齢者や障害者の方が困っていたら、手助けをする」は、男性の70歳以上(35.7%)で4割を割った以外は、女性の50代(69.2%)を筆頭にほぼ5割以上の割合を示す。「歩道や点字ブロックなどに、歩行の妨げになるもの(自転車や看板など)を置かない」は、男性の20代(51.5%)、男性の70歳以上(50.0%)で5割程度を示すが、女性の50代(27.7%)は3割弱となっている。(図表5-24)

<図表5-24> バリアフリーのまち実現のための取組み / 性別、性・年代別

